

平成29年度 学校評価 年度末評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 生徒一人一人の実態を把握し、実態に即した分かりやすい授業のための指導方法の工夫と改善 2 生徒の自己認識を深めるための支援の充実 3 生徒の健康・安全に関する意識や社会的規範意識の向上 4 防災教育を中心とした実践的な安全教育の推進 5 委員会活動、生徒会活動、舎生会活動等を通じた生徒の主体的な活動の促進 6 教科会の充実とともに、現職研修、職業種目研修、授業研修の積極的な実施 7 交流及び共同学習を始めとする校外における体験活動の充実 8 行事の精選、会議の効率化、部活動の見直し等による教職員の多忙化解消の促進 ※各校務分掌の重点目標は、上記「本年度の重点目標」に関連した内容を設定し、番号で示す。</p>				
担当	重点目標	番号	具体的方策	※	評価結果と課題
総務部	<p>・保護者との連携体制を深める。 ・教育活動やPTA活動を広く伝える。</p>	<p>2 5</p>	<p>・PTA 行事の内容の工夫や呼びかけにより参加者を増やし、保護者が教育活動を知り関わる機会を増やす。 ・学校便り、PTA 便りの発行を通して教育活動、PTA 活動等の効果的な情報発信を行う。</p>	<p>B A</p>	<p>・給食試食会は、今年度1年生入学後まもない6月に実施時期を変え、好評であった。PTA研修会では、PTA役員の意見を取り入れることで保護者のニーズに沿ったテーマで取り組み、昨年度より多くの参加者が研修できた。PTA活動について見直す点もあるため課題となる。 ・広報担当の役員と総務部担当職員によりPTA便りの掲載内容等について話し合いの場をもち、改善に向けて検討することができた。より読みやすい学校便りを目指し、改善できた。</p>
教務部	<p>・生徒の実態や時代に即した教育課程を編成する。 ・生徒の実態に即した分かりやすい授業内容や指導方法を検討する。 ・交流及び共同学習を推進する。</p>	<p>1 6 7</p>	<p>・より生徒の力が育つ教育課程の編成をするために学校全体で検討、編成をする。 ・教育支援部と連携を取り、日程、時間割、教員の調整をし、校内研究の効果的な推進に努める。 ・猿投農林高等学校との交流及び共同学習を行う。</p>	<p>B A A</p>	<p>・今後、より外国語に触れる機会が増え、在学中から英語に慣れておくが必要になってくる。これまでは、1、2年生時に学習していた英語の授業を3年生でも実施していく。また、これまで45分だった授業時間を来年度から50分へ変更する。 ・教育支援部と連携を取り、校内研修の公開授業等の教員の調整を行い、ほぼ計画どおりに研究を進めることができた。 ・2年生全員が参加し、新たな就労体験をすることができた。両校生徒にとって理解が推進し、よい体験になった。</p>
教育支援部	<p>・生徒の実態に即した分かりやすい授業内容や指導方法を検討する。 ・ホームページの適正化を図るとともに、本校の魅力を発信する。</p>	<p>1 6 5</p>	<p>・校内研究で、道徳や職業生活の公開授業の実施や振り返りを行う。 ・学校ホームページの必須要素を取り入れる。 ・計画的な更新と部活動ページの新設をする。</p>	<p>A A</p>	<p>・グループワークやロールプレイを授業に取り入れたり、プレゼンテーションソフトやタブレット端末、DVD等の教材を使用したりするなど、授業展開や指導方法に工夫が見られた。今後も、単元に合った授業内容や指導方法、授業形態などを考えていきたい。 ・学校概要(沿革、生徒概要、学区や地域の紹介)の追加や部活動のページの新設、計画的な新着情報の更新など、本校の魅力を発信することができた。また、カウンターを設置し、月別のアクセス数を把握することができたので、今後はそれを参考にしながら更新をしていきたい。</p>

生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・防災を中心とした実践的安全教育を深める。 ・生徒中心の会議等を行い、主体性を養う。 ・道徳教育を通し、いじめをしないという意識を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプを中心に、災害の知識や対応について学習する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・予定どおり日程を終え、<u>実施後のアンケートでは、どの学年も知識の獲得や危機意識の向上等良い結果が得られ、防災学習に対する意欲は高まっている。</u>
		5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見が具現化できる会議を設定し、自分達で物事を決め、責任もった行動ができるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の<u>生徒代表者会議を開き、必要物品の検討や購入、使用状況を報告することができた。</u>委員会や部活動内で話し合い物品を購入したことにより、今までより物の扱いが丁寧になった。
		6	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業前後に打ち合わせを行い、共通理解を図る。 ・生徒会通信（アンケート）を3回実施し、生徒を取り巻く環境を把握し、対応する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・どの単元も「マナー」に関する内容（特にSNS）で授業を行った。しかし、依然トラブルが多く、<u>今後も検討を重ね、規範意識を高めることができる資料を作成していかなければならない。</u>生徒会通信も生徒会中心で作成し3回発行した。アンケート結果を活用し、問題防止に努めたい。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の推進と学校給食の充実を図る。 ・生徒・教職員の健康・安全に関する意識を高める。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と、関係する教諭が連携し、食育の指導体制づくりを行う。 ・地産地食や食文化などの理解を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の食に関する指導について、<u>栄養教諭と関係する教諭で考え、まとめることができた。</u>また、<u>給食だよりの献立材料表を、食材の栄養素の成分が見て分かるように変更して配布することができた。</u>生徒給食委員がバランスのよい献立を考え、給食で出すことができた。今年度、<u>学校給食優良校として表彰していただいた。</u>
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・危険予知トレーニングを作業学習で行い、安全に関する意識を高める。 ・校内の巡視を定期的に行い、危険箇所を早急に調査、改善する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援部と連携し、危険予知トレーニングを行うための教材研究を行った。また、教科会Ⅱを中心に教材作りや実施計画を立て、<u>全職業種目で実施できた。</u>生徒からは、<u>たくさんの改善意見が出され、活発な意見交換をする姿が多く見られた。</u>今後も、危険予知トレーニングを<u>継続して行えるようにしていきたい。</u>校内の危険箇所については、できるだけ早く改善することができている。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の共通理解を図り、生徒一人一人に則した進路活動を進める。 ・同窓会活動の充実を図る。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・企業で得た情報から企業が求める生徒像を会議等で発信していく。 ・1、2年生から進路への意識をもち、自己認識を深めるために、講話を行い、職業生活の授業とも連携していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年生学年職員には学年会等を通して、また職員には研修会を通して<u>卒業生の情報や企業からの情報を伝えることができた。</u> ・1、2年生には、年度当初や長期休業前などに3年生の進路の状況を伝え、<u>今すべきことなどを話す機会を設け進路活動に対する意識を高めることができた。</u> ・3年生は<u>職業生活の授業で事業所の人事の方から講話をいただく機会がもて、卒業後に向けて今やるべきことを確認することができた。</u>
		5		<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会報を発行し、卒業生同士のつながりを深め、愛校心を深める。 ・同窓会入会式を行い、同窓生として、在校生としての愛校心を育む。 	
寮務部	<ul style="list-style-type: none"> ・自己認識を深め、お互いの長所や短所を認め合う心や態度を養う。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人との面談をし、不安や悩みなどを話すことができる機会を設ける。 ・生徒、教職員の意識を高め、 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じてトラブルなく落ち着いた<u>寄宿舎生活</u>ができた。生徒同士がお互いを認め合うことができたことの結果であると考え。4月から5月にかけて寄宿舎生 27 名全員と個別面談を行った

	<p>・健康や安全に対する意識を高め、その場の状況に応じた行動ができるようにする。</p>	3	<p>お互いの長所や短所を認め合う雰囲気をつくる。</p> <p>・服用している薬について理解を深め、薬の取扱いについても意識を高める。</p> <p>・避難の方法や経路について理解を深め、安全に身を守る方法について、自ら考える力を養うため、防災学習を実施する。</p>	B	<p>ことも、生徒一人一人との信頼関係を築く上でよい取組となった。次年度以降も、活動を継続し、生徒一人一人とのコミュニケーションを大切にするとともに、お互いを認め合う雰囲気をつくっていく。</p> <p>・服薬の際に、自分自身が飲んでいる薬の名前を確認して手渡すことで、生徒自身の健康に対する理解を深めるとともに誤飲防止にもつながった。<u>服薬依頼書の提出が遅れるケースが度々あったので、次年度に向けて改善していく。</u>防災学習では、いろいろな状況を想定した訓練を実施した。生徒にとっても職員にとっても、よい訓練となった。</p>
運営委員会 部会	<p>・教職員の多忙化の解消を図る。</p>	8	<p>・仕事の分担、会議の効率化、部活動の見直し等、多忙化解消につながる方策を考え、実践する。</p>	A	<p><u>会議を集中して行なう日や午後の部活動を実施しない日の設定</u>など、次年度に向け一部試行することができた。各分掌でも、<u>業務や行事の見直し</u>を図り、具体的な案を検討することができた。</p>
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	各校務分掌の重点目標を評価項目とし、各重点目標の達成度を下記評価基準に則して評価する。				

※評価基準

A：計画どおりに進んでいる。

B：ほぼ計画どおりに進んでいる。

C：あまり計画どおりに進んでいない。

D：計画どおりに進んでいない。